

「今週の1枚」



ウメノキゴケ (ウメノキゴケ科)

地衣植物というコケでないコケの代表。その名のとおり古いウメやサクラの樹皮によく見られる。どちらかというとな酸性の樹皮を好む傾向があるのでマツやスギでは樹皮一面をおおう事がある。とくに、ウメノキゴケの着いたマツに枝は「苔松」として正月のおめでたい生花として使われる。ところが、弱った樹木の幹や枝に多く見られることから樹木の生育に害を及ぼしているのではないかと疑われ、手入れと称して樹皮からコケを剥ぎ取ってしまう人がいる。これはとんでもない間違いで、コケが多いのはその場所の大気環境が良好である証拠である。ただ、生育のためには適度の陽光が必要であるから、樹勢が強く葉の量が多いと枝や幹の上方から姿を消し、葉が少ないと多くなる傾向がある。地衣植物の体は菌類と藻類の共生してできているため、乾いた状態では白色の菌糸が目立ち、湿った状態では菌糸に埋もれた藻類の緑色が浮かび出てくる。

(No.86 2003.2.3 掲載)

Parmotrema tinctorum (Nyl.) Hale (Parmeliaceae)

One of the most common epiphytic lichen in warm-temperate zone, growing on the bark of *Prunus* spp., *Pinus* spp., *Cryptomeria japonica*, etc.